

柳川 雅人 氏の学位審査結果の要旨

主査：野村 昌作

副査：藺田 精昭、木梨 達雄

1型自己免疫性膵炎(AIP)は、IgG4関連疾患の膵病変とされているが、病因・病態に関してはいまだ解明されていない。今回申請者らは、1型AIPにおける好塩基球について検討を行った。まず13例の1型AIPの膵組織を用いて、免疫組織化学染色法にて好塩基球の浸潤の有無について検討した。さらに浸潤した好塩基球上のToll-like receptor(TLR)発現について検討を行った。次に、内服治療のされていない40例の1型AIP患者の末梢血を用いて、TLR1-9リガンドで刺激しフローサイトメトリーにより活性化好塩基球(CD203c)の変化率を解析した。1型AIPの膵組織において、13例中10例で好塩基球の浸潤を認めた。患者の末梢血中の好塩基球は、組織で発現するTLR(TLR2あるいは4)で高い活性化が認められた。また末梢血においてはTLR4刺激によりコントロールに比べ活性化率は有意に上昇を認めた。以上より、1型AIPにおいて好塩基球が炎症部位に誘導され、それに伴いリクルートされた炎症性単球をM2マクロファージへと誘導することで、1型AIPに特徴的なM2マクロファージの誘導・線維化・Th2免疫反応等が起こる可能性が示唆された。